

6 潮田東部 地区

1. 地区概況

鶴見川と海側の工業地帯に挟まれた潮田地区の東部に位置し、川崎市に隣接しています。平坦な地形が広がっています。潮田地区で最も多い14自治会町内会があります。

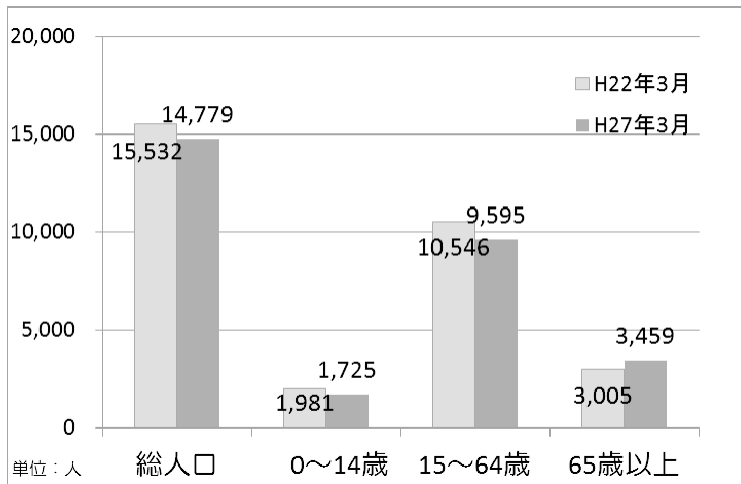
潮田神社、潮田小学校、入船小学校、潮田中学校、寛政中学校が立地しています。

6月の潮田神社例大祭は、潮田地区の一大イベントです。



2. 潮田東部地区の人口（年齢区分別）

	H22年3月 (年齢区分別比率)	H27年3月 (年齢区分別比率)	【参考】H27年3月 (鶴見区全体の 年齢区分別比率)
総人口	15,532人 (100.0%)	14,779人 (100.0%)	(100.0%)
0～14歳	1,981人 (12.8%)	1,725人 (11.7%)	(13.3%)
15～64歳	10,546人 (67.9%)	9,595人 (64.9%)	(67.0%)
65歳以上	3,005人 (19.3%)	3,459人 (23.4%)	(19.7%)



- 5年前と比べて、0～14歳、15～64歳、総人口は減っています。
- 一方で、65歳以上の人口は5年前の15%増えており、高齢化が進んでいます。

*地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。 出典「横浜市統計ポータルサイト」

3. 第2期計画

- ① 外国籍の方を含めた子育てのしやすいまちづくり
- ② 認知症の方の見守りを含め、
地域での顔の見える環境づくり
- ③ 担い手をはぐくむ地域づくり

4. 第2期計画の主な取組内容（22年度～27年度）

『テーマ **高齢者の見守りと地域での顔の見える環境づくり**についての
課題整理と解決策、具体的な推進方法の検討』 22～23年度

毎年2～3回地区フォーラムを開催し、地域の課題等について話し合いを行っています。

22年度はテーマについての課題と解決策、23年度はそれに向けた具体策を話し合いました。そこから各年度で地域の見守りを行える仕組みづくりや取り組みを進めていくことになりました。



『潮田東部地区見守り事業（**緊急連絡簿の作成**）』 24年度

事業に賛同していただいた世帯から提出された緊急連絡簿は各自治会・町内会で保管し、緊急時に開封して必要な対応を迅速に行えるようにしました。この連絡簿には家族構成や緊急連絡先が記載されているため、緊急時にすぐに関係者へ連絡ができるようになっています。また、災害時には避難所で開封し、「住民台帳」としても使用する予定です。

『潮田東部地区見守り事業（**緊急連絡カードの作成**）』 25年度



緊急連絡簿の回収率向上を検討するとともに、新たに「緊急連絡カード」の作成に取り組みました。外出中本人に緊急事態が発生した時、第三者の人が、本人が所持している「緊急連絡カード」を使用して、家族等に迅速に連絡できる体制を作るとともに、そこに記載された「かかりつけ医」や服用薬を確認し適切な対応がとれるようにすることが目的です。

『地域での見守りの大切さについての研修実施』

『潮田東部地区見守り事業（**シールステッカーの作成**）』 26年度

年度初めには横浜市社協による、地域での見守りについての研修を実施し、見守りの必要性を再認識し、工夫の仕方について理解を深めました。

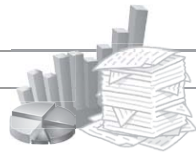
事業の活動を行う中で、見守りや防犯に対しての意識の低さが課題として見えてきたため、シールステッカーを作成し、地域住民の意識向上を図ることにしました。各家庭のポストや玄関先、町内会の掲示板に貼るなどして見守りに対する意識を高める試みをしました。



5. 第3期計画策定に向けて

第3期計画策定にむけての経緯

年度	月日	内容
26年度	11/21	【打合せ】 ・3期計画策定にむけて地域ニーズの把握としてアンケート実施を決定
	12/24	アンケート（A41枚両面刷り・質問14項目）配布 ・各町会30枚ずつ、14町会へ計420枚配布
	1/21	アンケート回収（364枚）⇒（～2月初旬）アンケート集計
	3/18	【打合せ】 ・3期計画⇒2期よりも具体的な取り組みを記載していく ・アンケート結果と地区情報を元に地区フォーラムを実施する
27年度	6/16	【打合せ】 ・アンケート結果（報告）
	8/6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜性別＞ 男性（45.4%）、女性（54.6%）</p> <p>＜年齢＞ 40～64歳（39.6%）、65～74歳（30.2%）、 75歳以上（22.0%）、20～39歳（7.4%）、 無回答（0.8%）</p> <p>＜潮田東部地区の計画を知っていますか？＞ 知らない（35.7%）、聞いたことはある （31.6%）、ある程度知っている（24.2%）、 よく知っている（6.6%）、無回答（6.6%）</p> <p>（以下上位3回答のみ掲載）</p> <p>＜お手伝いをしてもらいたいこと＞ 安否確認の声掛け（25.6%）、災害時の避難 の手助け（25.6%）、特になし（12.2%）</p> <p>＜近所の困っている人にできる手伝い＞ 安否確認の声掛け（26.9%）、災害時の避難の手 助け（18.1%）、話し相手や相談相手（12.4%）</p> <p>＜日頃からの関係づくりに必要なこと＞ 隣近所でのあいさつ（19.6%）、近所の日頃からの 付き合い（15.6%）、自治会・町内会活動への 参加（15.3%）</p> <p>＜地域で必要だと思う取り組み＞ 隣近所でのあいさつ・声掛け（28.8%）、災害時 の助け合い・防災活動（15.9%）、安否確認や見 守り（13.8%）</p> <p>＜近所の困っている人にできる手伝い＞ 安否確認の声掛け（26.9%）、災害時の避難の手 助け（18.1%）、話し相手や相談相手（12.4%）</p> </div> <p>・8/6地区フォーラムの進め方について ⇒グループワークのテーマは、アンケート結果を踏まえて「見守り」「必要だと思う取 り組みが進むためにはどうしたらよいか」として、3期計画の方向性を話し合う</p> <p>8/6 地区フォーラム（会場：潮田神社社務所、参加：42名） ・A～Eの5グループにわかれて話し合い ⇒ ～グループワークで出た意見の紹介～</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【課題・現状について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の負担が大きい。手伝ってくれる人がほしい ・「見守り」を大きく捉えがち。隣3軒の見守りからで良い ・マンション住民との関わりが難しい ・中学生のこどもの遊び場がない ・人が集まる場の必要性は感じるが、言い出した人が最後までやらないといけなくなってしまうため自分のところでは行えない </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【今後の取り組みについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手伝いができるときに手伝いをするサポーターや災害時協力者を募集する ・町会の何人かがグループとなり、確認したらチェックする体制を作る ・認知症や健康に関する勉強会を行う ・子どもも大人も居場所づくりが大切。町内会ごとで囲碁や麻雀などを行う ・東部地区を5～6か所に分け、身近な場で無理なく参加できる健康体操を行う ・東部地区で共通の「連絡カード」を作成し、地域と関わるきっかけを作る ・今までの取り組みを継続して行っていく </div>
8/19	【打合せ】 ・支えあい・見守り・健康づくりを柱に据える ・キャッチフレーズは、昨年度策定したステッカーの標語を活用する	





6. 第3期計画策定（28年度～32年度）

声かけて 心がつながる 潮田東部

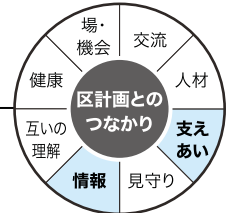
目標1 地域みんなで支えあい

■現状の良いところ・課題

- ・非常時の対応などは民生委員だけではできない。災害時などに民生委員を手伝ってくれる人がいると良い。
- ・行事への参加者が固定化している。

■5年間の具体的な取組

- ◎自治会・町内会単位で災害時に協力できる人を募集し、災害時の協力隊を作る
- ◎地区独自の地域活動 PR ツールの作成



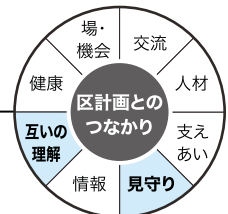
目標2 地域の中での見守り活動

■現状の良いところ・課題

- ・2期計画で実施した『緊急連絡カード』は地域で浸透している。
- ・今は、隣近所の名前も分からない状況で、近所の関係性が低い。

■5年間の具体的な取組

- ◎第2期計画で実施した見守り推進事業の継続
- ◎地域で認知症の方を見守るために、認知症の講座を各町会で実施する。
- ◎向こう3軒両隣の見守りが出来るように、日頃から声掛けができるように働きかけを行う。



目標3 スポーツを活用した健康づくり

■現状の良いところ・課題

- ・ラジオ体操、ウォーキング（計55回/H27.8月現在）を継続的に現在実施している
- ・地区社協でウォーキングを2カ月に1度実施しているが参加者が固定化している。

■5年間の具体的な取組

- ◎現在実施している地区内のラジオ体操、ペタンク大会やグラウンドゴルフ大会の内容拡充

